

4月

no.553

ほとけの子

特集
花まつり



特集

花まつり

花まつり

お釈迦様のお誕生日



栃木・呑竜幼稚園園長
小林 研介

四月八日はお釈迦様のお誕生日です。仏教園では花御堂を出し、その中に誕生仏をおまつりし、甘茶を注いで祈る「花まつり」を行います。お釈迦様はお生まれになったとき、七歩あるかれて、右手で天を左手で地面を指差されたお姿で、

「天上天下唯我独尊」とおっしゃったと言われて
います。幼稚園でそのお話をしますと、年長の子
ども達はすかさず「うそだ」と言います。「いや
いや、お釈迦様だから歩いたの」と返すと、「そら
なんだ」とばかり納得いたします。そして続け
て「そのときに空からとっても甘い雨や綺麗なお
花が降ってきたんだよ」と言うと、「ほんと!？」と
目を丸くします。そして「それくらいお釈迦様の
お誕生を皆が喜んだというわけ」との説明に素直
にうなずいてくれます。幼児の真っ白な心のキャ
ンパスは、よいことも、時にはわるいことさえ
も、何のためらいもなくこのように受け止めてい
くのです。

もう少しこのお話をお母様やお父様のために続
けます。お釈迦様は実在の人です。それも王子さ

まとしてお生まれになりました。場所はヒマラヤ山脈の南麓、現在のネパールとインドの間あたりの小さな国で、シャカ国と言いました。お父様はシュッドーダナ（浄飯王）、お母様はマヤー（摩耶）と申します。お二人の間になかなか子どもが出来ませんでした。ある夜のこと、マヤー様は、六本の牙を持った真つ白な象が体内に入る夢をご覧になりました。

不思議な夢だったものですから、お妃様は王様にその夢のお話を伝えられました。王様は夢を占うバラモン（婆羅門）を呼ばれ、このことをどう捉えるか占わせました。答えは「これは王子様がお生まれになる前兆で、しかもこの王子様は後に人類全てを救済する方になられる」ということでした。勿論お二人は大喜びをなされました。その後マヤー様は臨月を迎えられると、ご実家の



コリヤ国に出産のため向かわれました。一行が途中のルンビニーの園で休憩をとっていたときのことです。王妃様が香りのよいアショカ（無憂樹）の枝の花を取ろうと手を伸ばされたとき、急に産気づかれお産が始まりました。こうしてお釈迦様はルンビニーの花園でお生まれになり、そのときのご様子が先に子ども達に話したお話なのです。

ですから花まつりには、先にお話したように花御堂に誕生仏、つまり右手で天を左手で地を指差されたお釈迦様のお像をおまつりして、甘茶（アマチャズルを煎じたもの）をおかけするのです。花まつりが灌仏会、降誕会と言われる所以でもあります。

当園の園歌は小林龍雄作詞、早川史郎作曲の

「いかせ いのち」と言います。勿論園もちんでよく歌います。最後の歌詞は「たった ひとつの いのちを いかせ」となっています。このとき、子ども達はお釈迦様のあのポーズ、つまり両手で天地を指差す姿をとるようになっていきます。まさしく「天上天下唯我独尊」であります。

この「天上天下唯我独尊」という言葉はよく誤解されますが、「天上天下(世の中)で私こそが一番尊い」という意味ではありません。「それぞれの人が、それぞれに尊い」という意味なのです。ですから「あなた方、一人ひとりのいのちを生かしてください」という歌詞のところで、お釈迦様のお生まれになったときの姿をとり、この言葉の意味をかみしめることをします。お釈迦様の「天上天下唯我独尊」という言葉は、詩人の金子みすずさんの「みんなちがって みんないい」や、人気

グループSMAP(スマップ)の「ナンバーワンでなくていい。オンリーワンの花になろう」などとも通ずるわけです。

それぞれの「いのち」、それぞれの「存在」の大切さをお釈迦様は説いてくださいました。さて、では私達はこのことをどのように伝え広めていけばいいのでしょうか。それは子ども達に「あなたの誕生をどれほど望み、待っていたか」ということを伝えることだと思えます。お父さんお母さんは勿論のこと、多くの人があなたの生まれてくるのをいかに待ち望んでいたかということなのです。

私事で恐縮ですが、長女の誕生までにはこんなことがありました。妻が妊娠三カ月のころ急な出血がありました。その日はあいにく誰も家におらず、妻は一人で病院に行きました。治療を受けま



したが出血は止まらず、母体の安全を考えるとお腹の子どもは墮ろおさざるを得ない状態であったようです。医者の説得もあつて手術台にのつた妻は、三分間だけ待つてくださいと先生に頼みました。妻は必死の思いで「ナムアミダブツ・ナムアミダブツ」と唱えるしかありませんでした。その思いが伝わったのか奇跡的に出血は止まりました。絶対安静の状態がその後三週間続きました。絶対安静の子は順調に育ち女の子が生まれました。私は産科の先生に無事に生まれたお礼を言うために出向きました。すると逆に「お礼を言うのは僕の方だよ」と言われました。「おたくの奥さんが三分間で出血を止めると言わなければ、僕はあの時点ですぐに手術をしていたからね。女の人次子ですごいもんだね」と続けられました。正直びっくりしました。その経緯を私は知らなかったから



です。妻からもそのことは聞かされていませんでした。あのときから七カ月たつて初めて知らされたのです。今その娘も二十八歳になりました。そのときはまだまだ小さないのち、男親の私からすれば名前もなく性別もわからない遠い存在。ですからお医者から母体が第一と言われれば「そうです。しかたありませんね」という一言で消えかけたいのちなのです。しかしその娘が、今は一人の人間として自分の道を歩んでいるのを見るにつけ、もしあのとき妻が頑張らなければこの子はいないのだとの思いが浮かび、いのちというものの重さを感じざるを得ないのです。その後二人の子どもに恵まれましたが、長女はこの二人とは当然の如く違う個性を持っています。子ども達が何もなく育つにこしたことはありませんが、こんな経験^ミを夫婦でしたことで「天上天下唯我独尊」の

意味がわかるような気がします。世の中に一人として同じ人などいません。誰かが誰かの代わりになることなんかありません。あなたがあなたとして生まれたということがどれだけ有り難いことか、そして尊いことかということを、親は子どもに教え、伝えたいものです。

二五〇〇年前のルンビニーの美しい花園でお釈迦さまはお生まれになりました。甘露の雨と天の調べがその喜びを現したと言われています。その喜びは現代も同じです。「生まれてくれてありがとう。パパとママはあなたを待っていたのよ」というメッセージを伝え続けたいものです。その気持ちを含めて、花まつりには多くの人の喜びの甘茶をお釈迦様におかけするのです。花まつりとはそんな希望に満ちた春の日なのです。

● 小林 研介(こばやし けんすけ) ●

栃木県佐野市・呑竜幼稚園園長
 栃木県仏教保育協会副理事長
 足利短期大学・佐野短期大学講師
 趣味はサッカー。最近はホームページの更新に凝っています。
<http://www.donryu.net/>

著書

「幼稚園の四季」 小林研介 2009 鈴木出版
 「保育Q & A101 3・4・5歳児」 小林研介監修 2008 チャイルド本社
 「保育Q & A101 保護者対応」 小林研介監修 2009 チャイルド本社
 「子どもと表現」 浅見均編著 小林研介共著 2009 日本文教出版
 「保育者の仕事 自己チェックリスト」 執筆代表小林研介 2000 世界文化社
 他多数